

令和5年2月21日

SDGsの取り組みについて

議題3.

昨年度案を具体的に実行するための意見交換

愛知の山の登山道をどうしたらいいのか？どう取り組んでいくのか？
どこまでだったら私たちにできるのか？

★登山道の枝葉カット

- 愛知の130山を、ここ3～4年の間に全山に登りましたが半数以上の山で、木の枝がはびこり、登山道が荒れていると感じました。一部の山で体に触れるくらいの枝をハサミでカットしながら登りましたが、下りは体に触れる枝がなくなり快適でした。いつも軽量のハサミとノコギリを携帯していますが、これを各会に取り入れてもらったらどうでしょう。
- 切ることに罪悪感もあるかも…。
- 切っていいものか？と躊躇してしまう。
→「登山口」と案内しているところはウエルカムと考えて、体に触れない程度に切っても良いのではないかな。

★自然歩道の下草狩り

- 瀬戸の東海自然歩道を歩いてみたら、ある所まで行くと草が生い茂り、ダニに食われ痛い目にあう。自然歩道くらいのことは草刈りを…と思うが、ボランティアも高齢者でガソリンも重いし限界がある。
刈る人ばかりではダメだし、サポートしてくれる人が必要です。
- 愛知県の身近な山から…5～10人で少しずつでも作業できたらいいかな。
- 愛知県内の歩くところくらいは、やっていきたいね。
- 取り組むにあたっての地権者の問題が有り…市町村、民有地 許可が必要。

★愛知県の現状把握

- 近隣県はガイドブック作成や〇〇マウンテンなど…と、安全登山の取り組みをし、県警も活動しているが、愛知県は何もしていない。
- 愛知県のここが足りない！こうであつたらいいなあ…意見しよう。
- 地元「お手伝いできませんか」と働きかけ、何が必要とされているのか？を知ることが大切。
- 愛知岳連の旗を立てて、自然保護指導員として、年に1回くらいやっていいのではないか。
- 今年はここをやろう！と候補地を決め、地元で掛け合い、題して「チャレンジ草刈り」

★啓蒙活動と学びの大切さ

- 保全活動をしているのに、勝手に植物を刈り取る人もいます。
「陸の多様性は、生物の多様性に繋がる」と考えれば、むやみに刈る事も、まして大事なものを刈ってしまえばヒンシュクを浴びてしまう。何を大事にしなければならないのか？守るべきものは何か？…を知ることが必要なのでは。←地元とよく話そう。
- 近隣の取り組み、どういう基準で自然を保護、活動しているのか？学ぶ会（講演会）に参加するのも良い。
- 生きている間に何ができるのか？どうあるべきか？学ばなければならない。
- 自然な状態でそのままだが楽しい…整備しすぎると淋しいかな。くねくねと、探りながら進むっておもしろいよ。
→感性、考え方の違いもありますね。

★時代の変化と山を守る活動の必要性

- 里山も含めて登山を有料化する時がきたのかも…。登山者による踏み荒らし、土砂崩れも直してくれるボランティアが集まらず、お金を払って直してもらった時代になった気がします。
- 猿投山も荒れていても人はたくさん来ます。ピクニックと登山の境目がなくなってきた今、身近な登山道の整備、自然保護、動物も含めて山を守る活動が必要です。
- 私たちから、年1つ2つでも地元で相談、働きかけを続ければ絶対に良い方向に向かいます。

◎今回、具体的な実行案は決まりませんでした。

- それぞれの会でこのことを報告していただき、話し合ってみてはどうでしょう。
- 今、愛知県の山や自然歩道で必要とされていることは何か？
- 取り組みが必要とされている場所とか山とか・・・。
- 問題が見えてくれば、おのずと取り組む内容も見えてくると思います。

3か月後の5月の下旬から6月の初めころにもう一度集まって話し合う機会を設けたいです。その時には是非いろいろなご意見を持ち寄ってほしいです。